

1 調査名称：静岡市都市・地域総合交通戦略策定調査

2 調査主体：静岡市

3 調査圏域：静岡市域及び静岡・清水両都心

4 調査期間：平成 21 年 6 月 26 日～平成 22 年 3 月 31 日

5 調査概要：

静岡市では、平成 18 年に「静岡市総合交通計画」を策定している。これは、広域の交通計画である第 3 回静岡中部都市圏総合都市交通計画（静岡中部都市圏パーソントリップ調査）をふまえ、静岡市の交通計画のマスタープランとして策定したものである。

静岡市交通マスタープランを実現していくためには、様々なステークホルダーと調整をしつつ具体の施策を絡めながら、計画を実行していくためのアクションプランを策定しなければならない。本調査では、先の上位計画と整合を図りつつ、静岡・清水両都心に焦点を当てた都心まちづくり交通計画を策定するものである。

また将来交通ビジョン実現の目標期間は、およそ 20 年後を想定しているが、そのビジョンを実現させる施策の中で、重要性、実現性の観点から、短期的（おおむね 5 年以内）に着手するものを静岡・清水各地区の「総合交通戦略」として位置付け、取り組んでいく。

I 調査概要

1 調査名：静岡市都市・地域総合交通戦略策定調査

2 報告書目次

1. 都心地区まちづくり戦略【交通体系編】の概要

- 1-1. 都心地区まちづくり戦略【交通体系編】で示す内容
- 1-2. 「まちづくり」と「交通」の一体的な取り組みの必要性
- 1-3. 将来交通ビジョン実現の目標期間

2. 交通に関する静岡市の関連計画の整理

- 2-1. 静岡市総合交通計画（H18）に示された静岡市の交通体系
- 2-2. 静岡市の上位・関連計画における交通体系の位置づけ

3. 都心地区まちづくりに対応する将来交通ビジョン

- 3-1. 静岡市の将来交通ビジョンの考え方
- 3-2. 静岡市全域の公共交通ビジョン ～「つなぐ」ビジョン～
- 3-3. 静岡都心地区の交通ビジョン ～「めぐる」・「つどう」ビジョン～
- 3-4. 清水都心地区の交通ビジョン ～「めぐる」・「つどう」ビジョン～

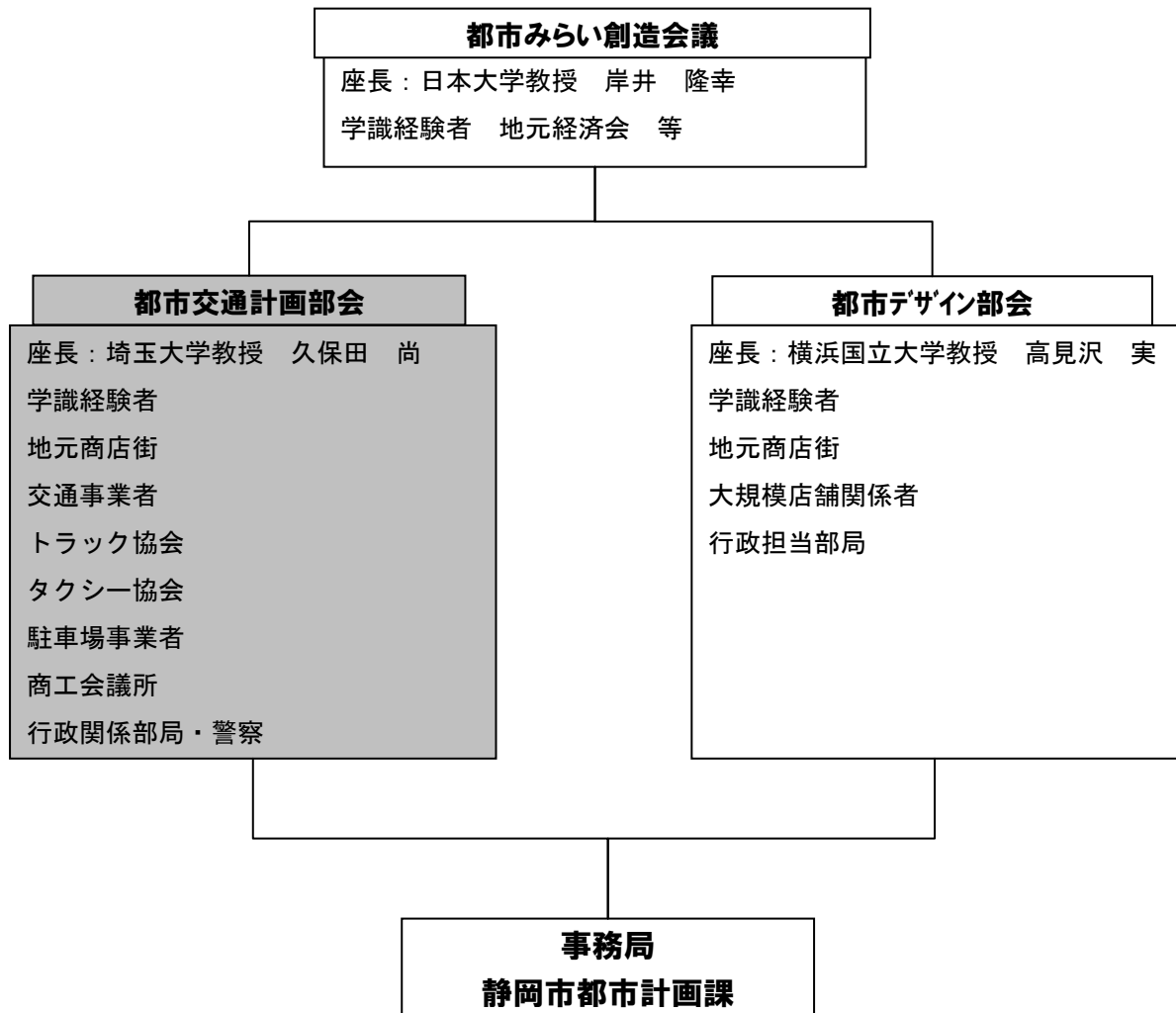
4. 交通ビジョン実現のための施策

- 4-1. 地域ごとの施策の分類
- 4-2. 静岡市全域の公共交通ビジョンに対する「つなぐ」施策
- 4-3. 静岡都心地区の交通ビジョンに対する「めぐる」・「つどう」施策
- 4-4. 清水都心地区の交通ビジョンに対する「めぐる」・「つどう」施策

5. 交通ビジョン実現に向けた短期的な取り組み（静岡市総合交通戦略）

- 5-1. 総合交通戦略とは
- 5-2. 静岡市全域の交通戦略
- 5-3. 静岡都心地区の交通戦略
- 5-4. 清水都心地区の交通戦略
- 5-5. 総合交通戦略推進のための体制

3 調査体制



4 委員会名簿等：

静岡県都市みらい創造会議 都市交通計画部会 委員名簿

所 属	氏 名
埼玉大学大学院 理工学研究科環境科学・社会基盤部門 教授	久保田 尚
東京海洋大学 海洋学部流通情報工学科 教授	兵藤 哲朗
(財)静岡経済研究所 常務理事	中嶋 壽志
静岡中央商店街	山本 耕三
静岡市清水商店街連盟 会長	野口 直秀
都市交通デザイン会議 主宰	村井 裕
静岡鉄道株式会社 鉄道部長	鈴木 善久
しずてつジャストライン株式会社 常務取締役	風間 直幸
(株)エスパルスドリームフェリー 常務取締役	住井 直道
静岡市タクシー協会会長 不二タクシー(株) 代表	狩野 育史
静岡県トラック協会 交通対策委員長	松田 忠義
(有)関川商会 代表取締役	関川 清明
静岡商工会議所 中小企業相談所所長	大石 敦紀
清水商工会議所 商工振興部長	澤野 裕幸
国土交通省中部地方整備局建政部都市整備課長	中西 賢也
国土交通省中部地方整備局静岡国道事務所長	小川 智弘
国土交通省中部運輸局企画観光部交通企画課長	栗原 弥生
国土交通省中部運輸局中部運輸支局長	山下 正晴
静岡県建設部都市局 都市整備統括監	中井 淳一
静岡県建設部港湾局 局長	長太 茂樹
静岡県警察本部交通部交通規制課長	稲葉 志朗
静岡県静岡中央警察署長	高橋 陽悦
静岡県静岡南警察署長	市川 久仁治
静岡県清水警察署長	國分 憲三
静岡市都市局都市計画部長	藤浪 芳朗
静岡市経済局経済部長	靱矢 雅浩
静岡市建設局道路部長	小田 博史

II 調査成果

1 調査目的

静岡市では、海と山という豊富な自然環境の中で比較的まとまりのある市街地が形成されてきた。しかし近年公共交通の衰退や自転車問題など、交通面においても様々な課題が生じてきている。

平成18年に策定された静岡市交通マスタープランを実現していくためには、様々なステークホルダーと調整をしつつ具体の施策を絡めながら、計画を実行していくためのアクションプランを策定しなければならない。本調査では、先の上位計画と整合を図りつつ、静岡・清水両都心に焦点を当てた都心まちづくり交通計画を策定することを目的とする。

また都心まちづくり交通計画の目標期間は、およそ20年後を想定しているが、そのビジョンを実現させる施策の中で、重要性、実現性の観点から、短期的（おおむね5カ年以内）に着手するものを静岡・清水各地区の「総合交通戦略」として位置付け、積極的に取り組んでいくものとする。

総合交通戦略は、都心まちづくり交通計画を策定する中で、総合的かつ一体的に取り組むべき施策メニューを整理し、戦略的に展開していくための具体的実施プログラムを策定するものである。

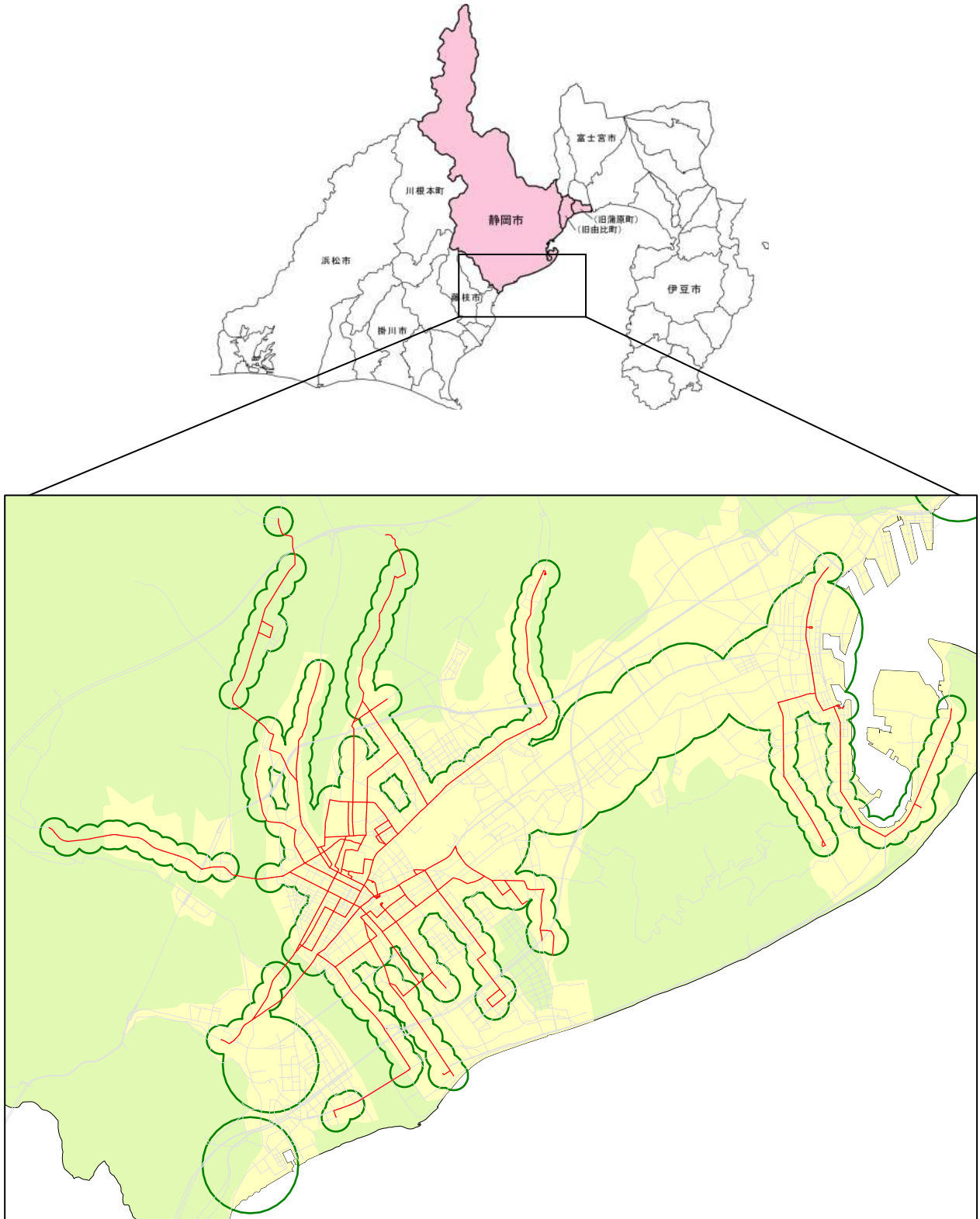
2 調査フロー

検討項目	業務工程											備考
	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
1. 都心交通ビジョンの数値目標の設定		■										
2. 都心交通計画の立案		■										
3. 施策・事業のパッケージ化				■								
4. 施策展開プログラムの立案							■					
5. 管理・運営の仕組みと推進体制の立案								■				
6. 市民広報の企画運営		■							■			
7. 都市交通計画部会等の運営支援		● 企画					● 骨子				● まとめ	
8. 報告書の作成										■		
9. 協議・打合せ		● 着手		●	●		● 中間	●		●		● 成果品

3 調査圏域図

都心まちづくり交通計画の対象地域は、静岡市全域とする。

その中でも計画を実現させる具体的施策について短期的（おおむね5カ年以内）に着手するものは、静岡・清水両都心を中心に検討する。



4 調査成果

(1) 都心地区まちづくりを支える交通ビジョン

都心地区の空間を踏まえた交通体系のあり方については、市域全体の中を「つなぐ」こと、都心地区のなかで「めぐる」こと、「つどう」ことをキーワードとしてビジョンを示しています。

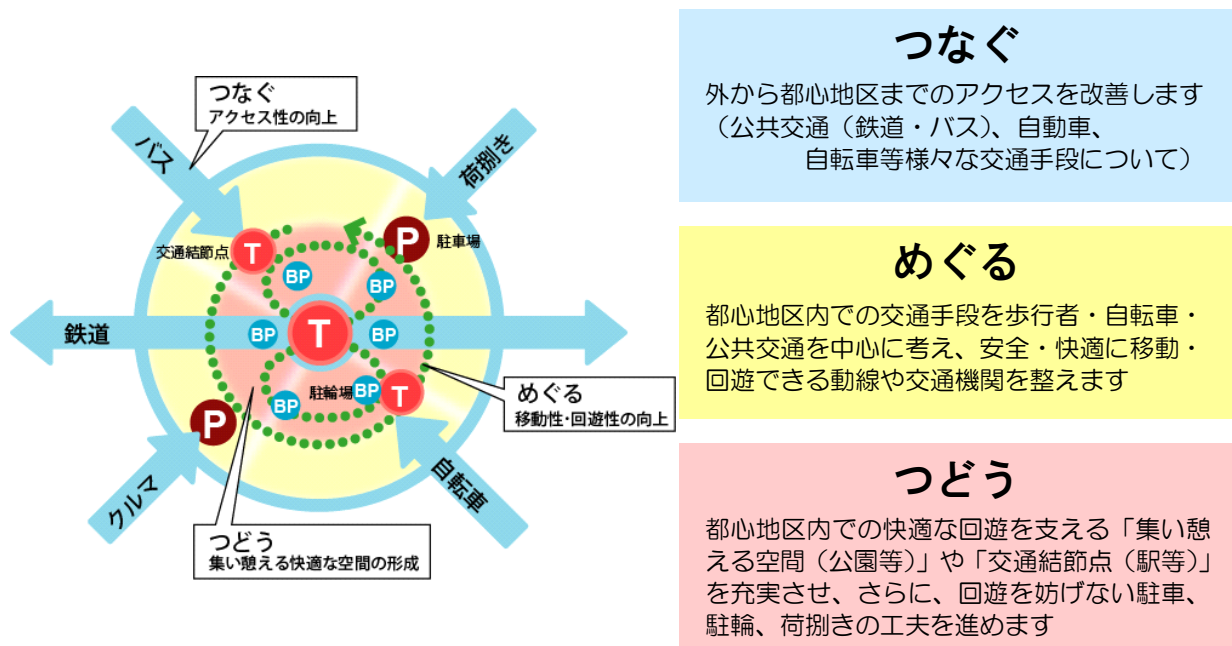


図 「つなぐ・めぐる・つどう」それぞれの役割

表 「つなぐ・めぐる・つどう」で扱う内容

		つなぐ (アクセス性)	めぐる (回遊性)	つどう (滞留・荷捌き)
空間の広がり		市域全体	静岡都心 ・ 清水都心	
交通手段	歩行者	—	歩行者ネットワーク	オープンスペース・滞留施設
	自転車	自転車道ネットワーク	都市内自転車走行空間	駐輪場
	鉄軌道	鉄軌道ネットワーク	都心内を回遊する公共交通	駅・電停・駅前広場等
	バス	バスネットワーク	—	バス停
	自動車	道路ネットワーク	—	駐車場
	(荷捌き車両)			荷捌き施設

(2) 「つなぐ」・「めぐる」・「つどう」のビジョンに基づく地域ごとの施策

市域全体の「つなぐ」施策、静岡・清水都心地区に関する「めぐる」・「つどう」施策は、以下のようになっています。

1) 静岡市全域の公共交通の基本目標 ～「つなぐ」の実現～

誰もが移動しやすく、環境にもやさしい都市づくりに向けて、公共交通や自転車、徒歩で移動しやすいまちづくりを目指し、3つの都心・副都心を中心とした、周辺鉄道駅や郊外の地域拠点を連携する公共交通システムを軸に、静岡・清水いずれかの両都心まで公共交通で、30分でアクセスできる圏域の拡大を目指します。

静岡市全域の公共交通に関する「つなぐ」施策

基本方針1:公共交通の重要性を認識し、利用促進を図る取り組み

- 【T-1】公共交通の利用促進の理念を謳う条例等の制定
- 【T-2】公共交通利用への転換を促すモビリティマネジメントの取組み

基本方針2:静岡・清水両都心をつなぐ幹線公共交通軸(鉄道)の強化

- 【T-3】既存鉄道のサービス水準の向上

基本方針3:市街地を面的にカバーする幹線公共交通軸(バス)の形成

- 【T-4】幹線公共交通軸における一定のサービス水準の確保
- 【T-5】地域の実情に応じた多様な公共交通システムの確保

基本方針4:自転車・自動車・公共交通により都心へアクセスできるバランスのとれた道路整備

- 【C-1】幹線公共交通軸を強化するための道路整備
- 【C-2】幹線公共交通軸までのアクセスを容易にする道路整備

T: Transit (公共交通)
C: Car (自動車)

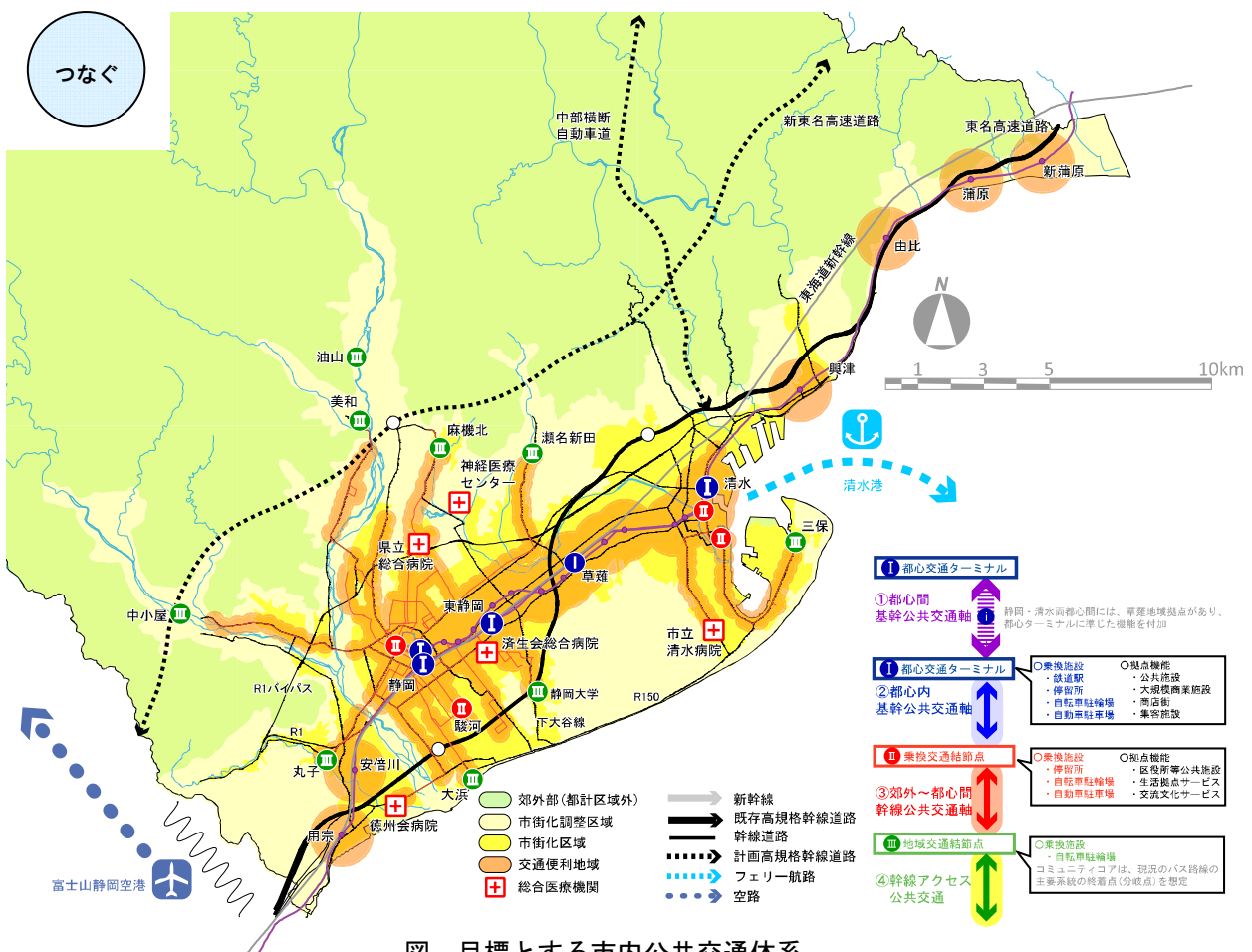


図 目標とする市内公共交通体系

2) 静岡都心地区の交通の基本目標 ～「めぐる」・「つどう」の実現～

静岡都心地区を「面的ひろがりを持った交通結節エリア」とみなし、エリア内は歩行者や自転車が安全かつ快適に回遊・滞留できる空間形成や、回遊を支援する公共交通システムの構築を目指します。

静岡都心地区の交通に関する「めぐる」・「つどう」施策

基本方針1：住民・来街者が安全かつ快適に歩いて楽しめる都心づくり

- 【C-3】通過・流入交通の抑制
- 【C-4】フリッジ駐車場への誘導
- 【C-5】荷捌き車両への適正な対応
- 【W-1】歩行者ネットワーク(線)の充実
- 【W-2】歩行者優先ゾーン(面)の構築
- 【W-3】滞留空間の創出・休憩施設の設置

基本方針2：都心内でも自転車の利用しやすい都心づくり

- 【C-3】通過・流入交通の抑制
- 【B-1】自転車の安全な通行の確保
- 【B-2】自転車駐輪体系の見直し
- 【B-3】公共交通と連動した自転車利用策

基本方針3：だれもが利用できる利便性の高い都心内公共交通ネットワークの構築

- 【C-3】通過・流入交通の抑制
- 【T-6】都心内回遊を支える公共交通ネットワークの構築
- 【T-7】交通結節機能の強化

W	: Walk (歩行者)
B	: Bicycle (自転車)
T	: Transit (公共交通)
C	: Car (自動車)

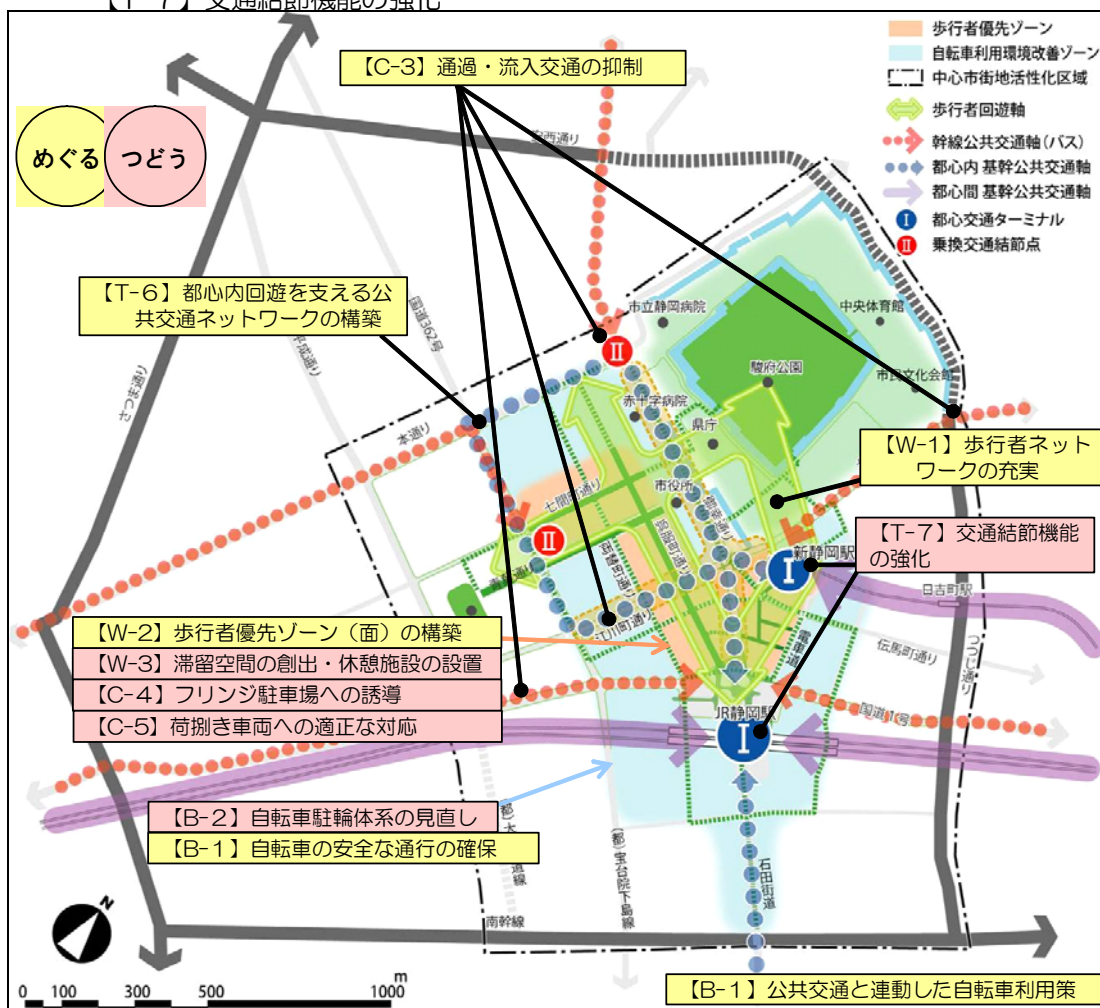


図 静岡都心地区の交通施策図

3) 清水都心地区の交通の基本目標 ～「めぐる」・「つどう」の実現～

清水都心地区の3つの拠点（清水駅・新清水駅・日の出地区）と港エリアが一体となった交通環境づくりを目指します。

清水都心地区の交通に関する「めぐる」・「つどう」施策

基本方針1:さまざまな交通手段でアクセスできる交通体系

- 【C-6】 海へ抜ける動線の確保
- 【C-7】 都心周辺の幹線道路網の構築
- 【C-8】 都心内拠点の駐車場適正配置及び効率的運用

基本方針2:都心内の3つの拠点を回遊できる交通システムの構築

- 【W-4】 臨海部を歩行者が快適に回遊できる空間形成
- 【B-4】 都心内を回遊できる自転車交通システムの構築
- 【T-8】 3つの拠点をつなぐ公共交通ネットワークの構築

W: Walk (歩行者)
 B: Bicycle (自転車)
 T: Transit (公共交通)
 C: Car (自動車)

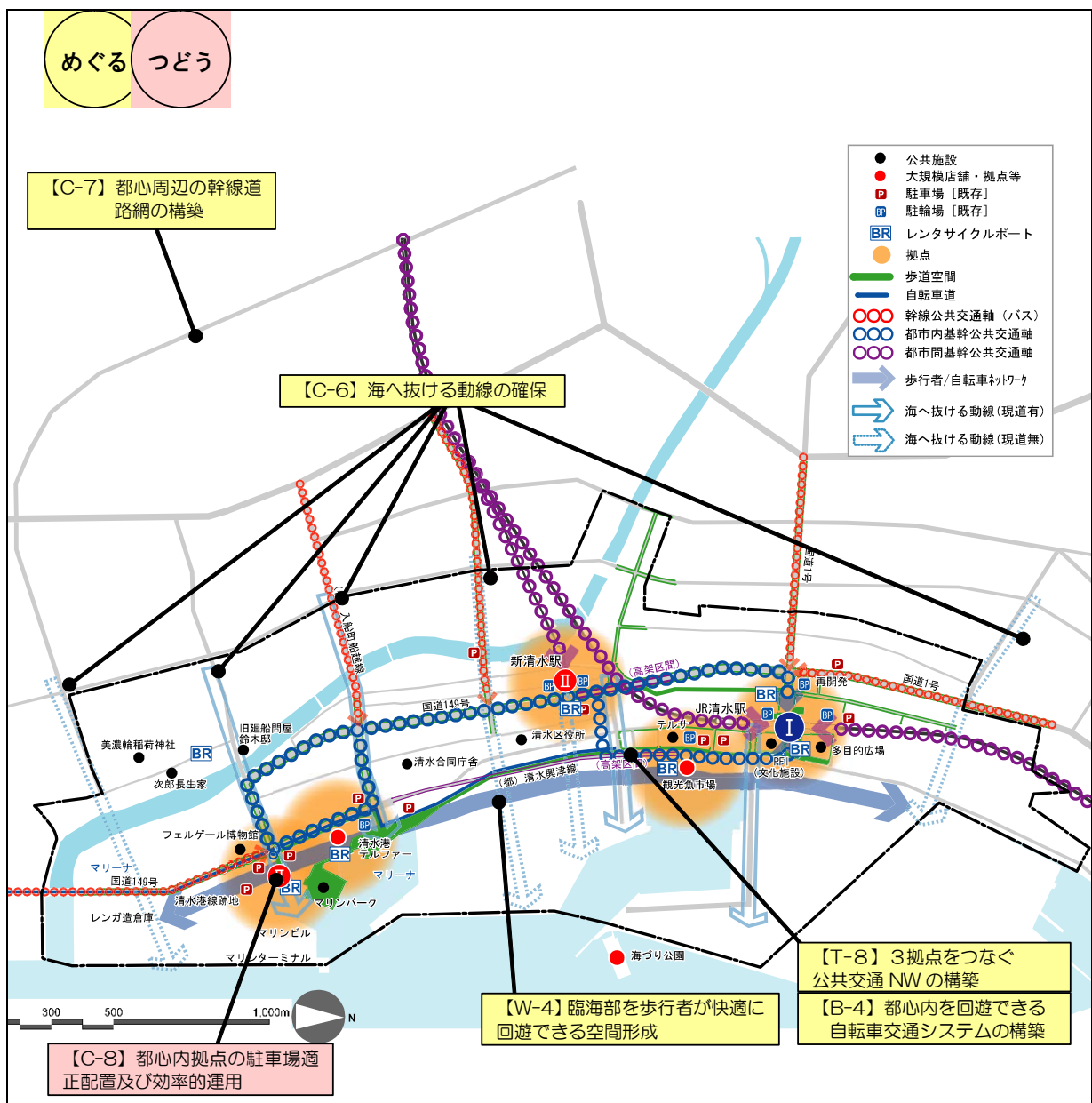


図 清水都心地区の交通施策図

(3) 交通ビジョン実現に向けた短期的取り組み

1) 静岡市全域の交通戦略 ～「つなぐ」戦略～

【つなぐ戦略】

●目標1 公共交通／自転車の利便性向上による市民の「マルチモーダル」なアクセス性を確保
～晴れた日は自転車で！雨の日は公共交通で！自動車を使わなくても安心しておか～

●戦略事業

ソフト事業

- ① 公共交通利用促進条例等の策定
- ② 自動車に過度に依存し過ぎないためのモビリティマネジメントの実施（大規模事業所、大規模商業施設、官公庁職員等を対象）

ハード事業

- ③ 公共交通の円滑な運行を確保する道路整備
- ④ 交通結節機能の強化（駅舎、駅前広場、駐輪場の整備）
- ⑤ 自転車道の整備

●実現する交通

- ① 自動車だけに依存し過ぎない、多様な交通手段で都心にアクセス
- ② 全市で自転車利用が活発化、公共交通利用率が向上

●評価指標の例

静岡都心地区へアクセスする交通の自転車分担率、公共交通分担率
(平成22年度全国PTアドオン調査と第4回静岡中部都市圏PT調査の数値により比較可能)

2) 静岡都心地区の交通戦略 ～「めぐる」戦略・「つどう戦略」～

【めぐる戦略】

●目標2 全国一番乗りのホコ天機能強化等による歩行者優先まちづくりの推進
～自動車でも自転車でも公共交通でも…最後はみんな都心を歩くのだから！～

●戦略事業

ソフト事業

- ① 社会実験の実施による歩行者優先環境の向上
- ② 都心の魅力を発信する公共サインの強化
- ③ 静岡都心を回遊する公共交通ネットワークの構築（LRT 導入検討）

ハード事業

- ④ 呉服町通り（紺屋町区間）道路空間再整備（リニューアル）
- ⑤ 市道御幸町鷹匠町2号線（電车道）歩行空間拡大
- ⑥ 無電柱化の推進

●実現する交通

- ① 歩行者が快適に移動できる空間が創出され回遊性が向上

●評価指標の例

歩行者通行量による評価

（静岡地域中心市街地通行量調査・お買物調査の経年変化により比較可能）

【つどう戦略】

●目標3 車両受け皿(駐輪場/駐車場)の質的/量的コントロールによる都心交通の整序化
～都心の限られたスペースを有効活用できる波及効果がついてくる～

●戦略事業

ソフト事業

- ① 駐車場の量的/質的コントロールの仕組み作り

コインパーキングの設置に対するコントロール、駐車場規制誘導地区（不附置、上限設定、総量規制等）、駐車場規制誘導地区内の駐車場（既存・将来予定）をFRINGE駐車場に移転誘導などの検討

- ② 駐輪場の量的/質的コントロール

短時間駐輪への対応（平面レベル駐輪施設）、長時間駐輪への対応（街区単位における駐輪場の確保、駐輪場の質の向上）路上駐輪規制、禁止区域の見直し（駐輪対策に合わせた放置自転車撤去の強化）などの検討

●実現する交通

- ① 無秩序な駐車場立地が減少し、駐車待ち車両による錯綜が減少
- ② 駐輪目的に応じて、利用しやすい駐輪施設ができ、適切な自転車利用が図られる

●評価指標の例

- ・ 路上放置自転車状況（地元商店街の協力要請を検討）
- ・ 駐車場利用状況（駐車場事業者のデータ提供/利活用を検討）

静岡都心地区 総合交通戦略施策パッケージ (案)

～ 都心の骨格となる公共交通・自転車・歩行空間の充実を目指す ～

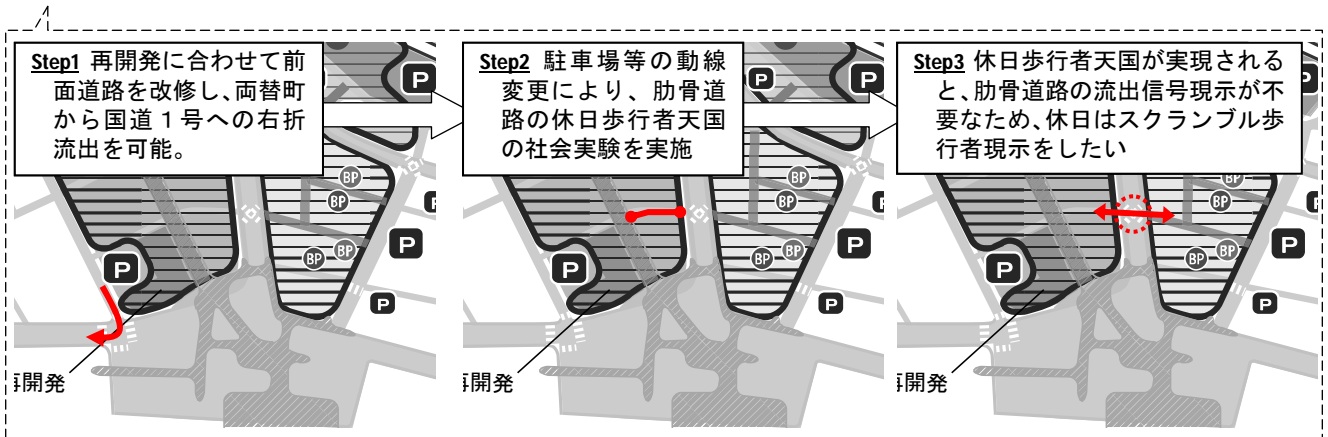
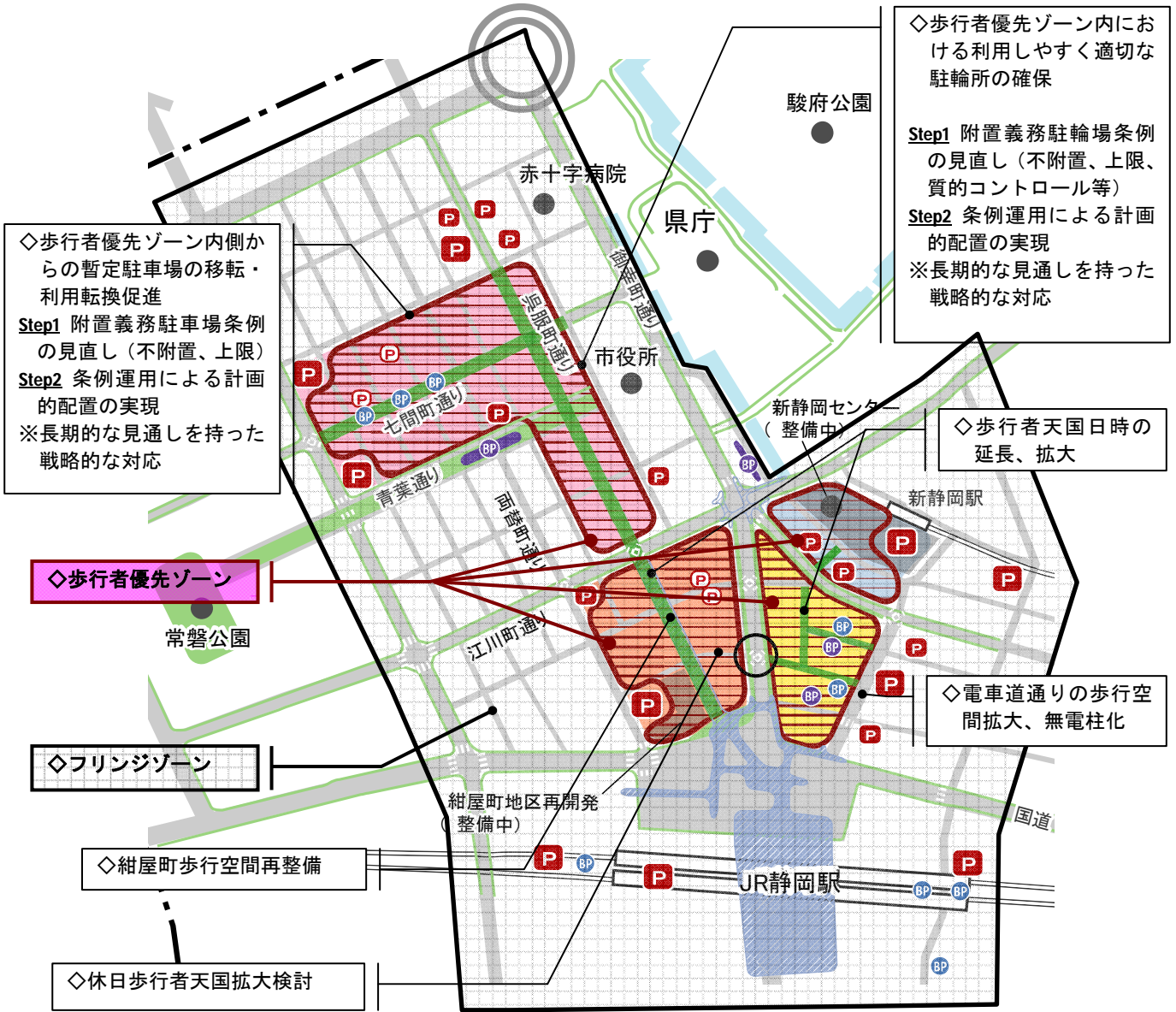


図 静岡都心地区の交通戦略図

3) 清水都心地区の交通戦略 ～「めぐる・つどう」戦略～

【めぐる／つどう戦略】

●目標4 点(駅広／駐輪場)と線(自転車道)を結ぶ「ハード事業」とレンタサイクル「ソフト事業」のパッケージで、だれもが使える自転車交通システムの構築
～市民も来街者も学生も、自転車で清水をめぐろう！清水都心の再発見！～

●戦略事業

ソフト事業

- ① 複数レンタサイクルポートによる自転車利用促進
→ 既存のレンタサイクルポートの活用や新規のレンタサイクルポートの設置
レンタサイクルシステム(料金体系・乗り捨ての仕組み)の構築
→ レンタサイクルのPRやマップ(駐輪場・レンタサイクルポート・回遊コース等)
- ② 清水駅西口駐輪場を活用したサイクルシェアリング

ハード事業

- ③ 自転車道の整備(自転車通行環境モデル事業 清水駅前地区)
- ④ 道路のバリアフリー化
- ⑤ 清水駅西口駅前広場整備

その他検討事項

- ⑥ 清水都心地区を回遊する公共交通ネットワークの構築(LRT導入検討)

●実現する交通

- ① 清水駅前の交通結節機能の向上
- ② 自転車を活用して自由に回遊できる清水都心

●評価指標の例

清水都心地区へアクセスする交通の自転車分担率

(来年度全国PTアドオン調査と第4回静岡中部都市圏PT調査の数値により比較可能)

清水都心地区 総合交通戦略施策パッケージ

～ 生活者も来街者も学生も利用しやすい自転車交通システムの構築を目指す ～

生活者／来街

- 公共施設
- 大規模店舗・拠点等
- 駐車場 [既存]
- 駐輪場 [既存]
- BR レンタサイクルポート
- レンタサイクル拠点
- 生活者対象ゾーン
- 来街者対象ゾーン
- 歩道空間
- 自転車道
- 幹線公共交通軸 (バス)
- 都市内基幹公共交通軸
- 都市間基幹公共交通軸
- ⇨ 海へ抜ける動線 (現道有)
- ⇨ 海へ抜ける動線 (現道無)

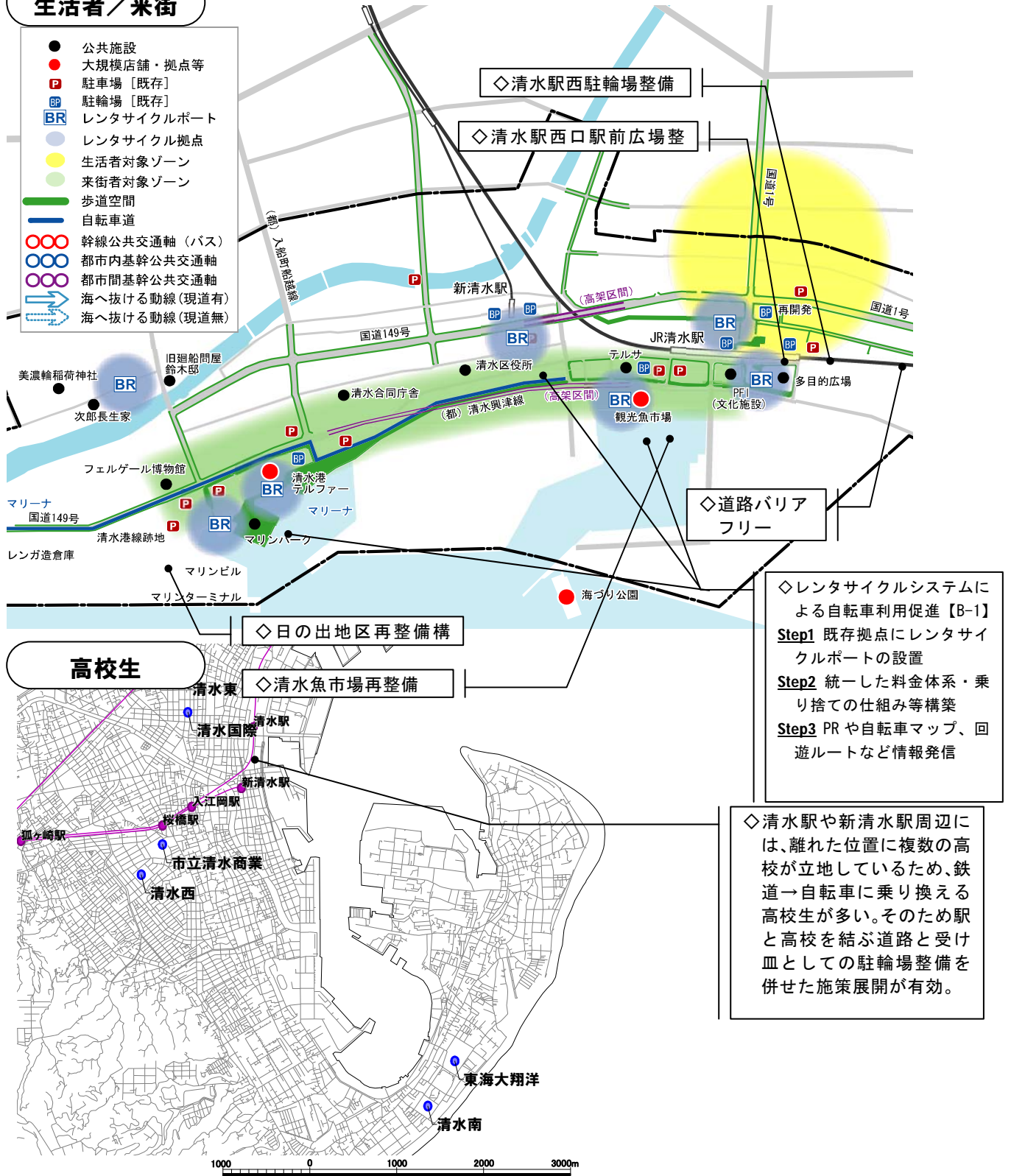


図 清水都心地区の交通戦略図